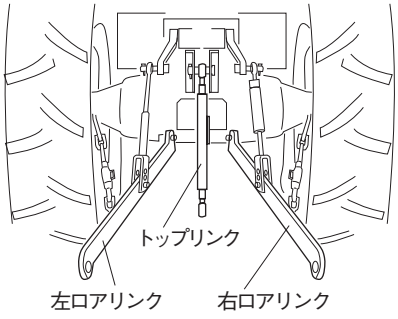
D.白いボトムプラウの装着

1、トラクタへの装着法

1）3点リンク（3点支持式）

ボトムプラウは3点リンクの直装式です。トラクタのトップリンク、左ロアリンク、右ロアリンクの3点で装着される。

水田のロータリ専用に使用されている特殊トップリンクは短くできているために、プラウ耕の作業姿勢がとれないので適さない。



2）カテゴリ

3点リンク装置は、各国で規格化され日本工業規格（JIS）でも規定されている。JISではカテゴリ0、カテゴリ1、カテゴリ2、カテゴリ3と規定され、それぞれトップリンクのピン直径やピン穴直径。ロアリンクのピン直径やピン穴直径などが異なる。

「0」は20馬力以下に、「1」は15～60馬力、「2」は40～100馬力、「3」は90馬力以上のトラクタにそれぞれ多く使われる。また、「0」は「0小」「0大」の2通りに分れクロスシャフトの間隔が違う。

50馬力クラスのプラウには、「Ⅰ」「Ⅱ」のどちらでも装着できるように、トップリンクが結合されるマスト穴や、ロアリンクが結合されるピン径などは兼用になっている。

2、トラクタへの装着前に

1）トラクタのチエックと調整

a）タイヤの空気圧

適正な空気圧はタイヤの接地面積を増してラグの働きをよくし、スリップを防止し、けん引力を引き出す。

リバーシブルプラウの場合は、リヤタイヤの空気圧を左右とも1.0～1.2kg/cm^{2}に、ワンウェイプラウの場合は、0.8～1.0kg/cm^{2}に調圧する。

フロントタイヤは、左右とも1.6kg/cm^{2}に調圧する。

＊ラジアルタイヤはトラクタの取説にしたがってください。

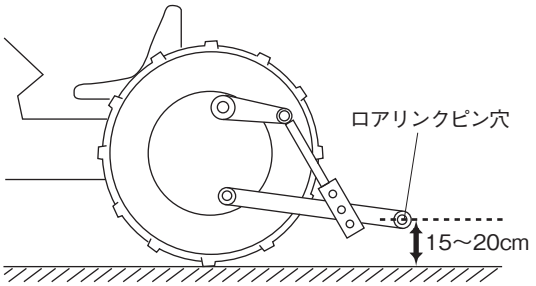
注）リバーシブルプラウの場合は、往復で作業をするために、タイヤは左右交互に溝に入る。左右の空気圧が異なれば、耕深は往復で異なりれき条は凸凹の原因になる。

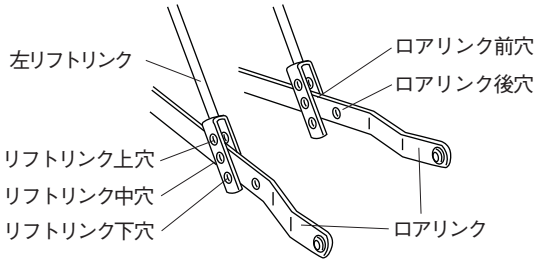
b）ロアリンクピン穴の地上位置

プラウ耕は、土中の深い位置で作業をするため、ロアリンクは下がる必要がある。

プラウがささらないという質問のほとんどは、このロアリンクがさがるように調整していないのが原因である。

ロアリンクピン穴の位置は、地上15～20cm程度まで下がるようにする。





ロアリンクがさがらないときは、ロアリンクとリフトリンクとの取付穴位置を変える。そのときは、必ず左右同じ位置に付ける。

リフトリンク下穴とロアリンクの後穴は、最大にさがりますが、それでもさがりきれない場合は、左リフトリンクの長さが調節できるものは調整する。

c）油圧カプラの確認　＊リバーシブルプラウの場合

カプラ(メス)の連結口は、きれいになっているか確認する。

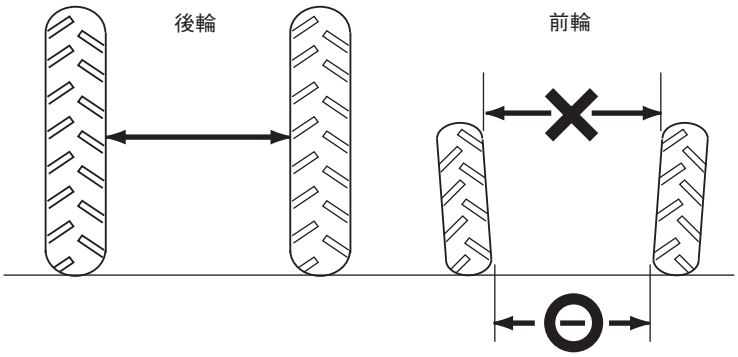
土やホコリは、きれいに拭きとり、ひどいときは軽油などで洗浄する。

守らないと、ホコリ等が混入してシリンダーが作動しないことがある。

d）前輪タイヤの内幅確認

耕起深25～30cmの場合は、後輪の内幅より5～10cm程度広くする。

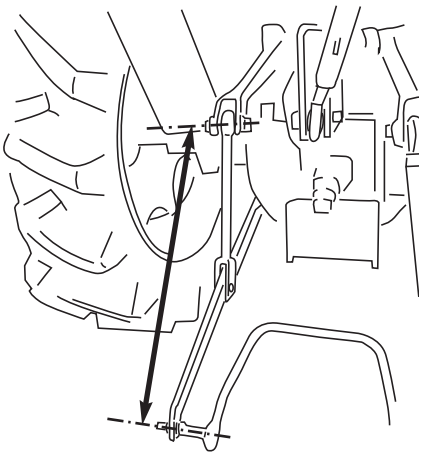
耕起深30cm以上の場合は、後輪の内幅より10～15cm 程度広くする。



e）リフトアームピンからロアリンクの穴までの長さ確認

＊リバーシブルプラウの場合

リバーシブルプラウは、往復で作業をするために、タイヤは左右交互に溝に入る。左右の長さが異なれば、耕深は往復で異なりれき条は凸凹の原因になる。



リフトアームピンのセンターからロアリンク穴のセンターまで左右同じ距離さにする。

2）プラウのチエックと調整

トラクタに装着する前に、あらかじめ調整しておく必要がある箇所がある。

もちろん装着してからでも調整ができますが、リバーシブルプラウの場合は、装着前のほうが調整作業がしやすいからである。

a）耕幅(耕起幅)の調整

b）ツイストコールタの調整　＊リバーシブルプラウの場合

c）コールタの調整

d）ゲージホイルの調整

e）ジョインタの調整

f）その他

型式により調整がそれぞれ異なります。詳しくは、製品に添付してある取扱説明書を参照する。

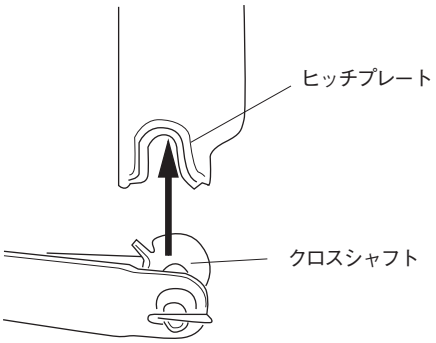
基本的な調整は31ページから掲載してある。

3、トラクタへの装着

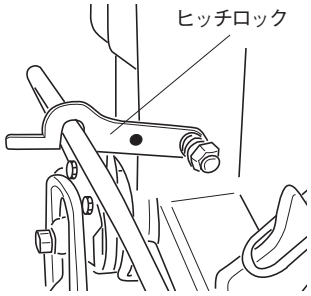
1）プラウからクロスシャフトを取り外して、トラクタのロアリンクに装着する。

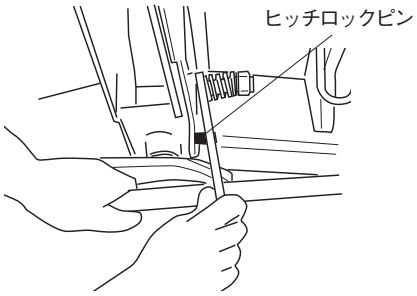
＊リバーシブルプラウの場合は27ページe)をチエックする。

2）トラクタをバックさせ、クロスシャフトをヒッチプレートに入れる。



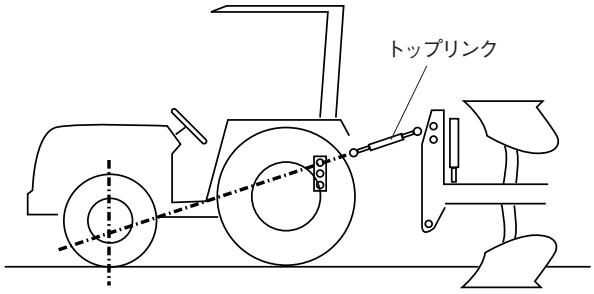
3）クロスシャフトを上向きに回転させ、ヒッチロックで固定する。





注）ヒッチロックのヒッチロックピンはピン穴に必ず入れる。

4）トップリンクをマストに取り付ける。



＊トップリンクの姿勢（4輪駆動の場合）

作業状態のときに、トップリンクの延長線が前輪を通るように想定してトラクタ側や　プラウ側の取り付け穴を選択する。

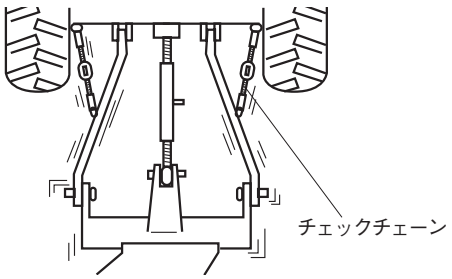
5）トラクタのエンジンを停止して、油圧カプラを接続する。

＊リバーシブルプラウの場合

6）プラウをゆっくりとリフトアップする。

7）スタンドをはずして、所定の位置に取り付ける。

8） 左右のチェックチェーンをゆるめ、プラウを左右に振って、タイヤに当たらない程度のところで、チェックチェーンをロックする。



注）チェックチェーンをピーンと張りすぎると、走行移動時のちよっとした揺れでトラクタの3点ヒッチやプラウを破損するおそれがある。

9）エンジンを低速にして、プラウをゆっくり回転させてる。そのとき、プラウがトラクタに接触しないか確認する。＊リバーシブルプラウの場合

10）レベルねじのハンドルをまわして、レベルねじの上面とレベル目盛の数値を合わせる。＊リバーシブルプラウの場合

以上は簡単に説明していますが、型式により手順が異なりますので、詳しくは、製品に添付してある取扱説明書を参照する。